

21. 悪性骨・軟部腫瘍の ^{201}Tl シンチグラフィによる術前化学療法の治療効果判定および早期予測

宮内 勉 利波 紀久 横山 邦彦
滝 淳一 隅屋 寿 絹谷 清剛
小西 章太 道岸 隆敏 久田 欣一
(金沢大・核)

術前化学療法がなされた悪性骨・軟部腫瘍の ^{201}Tl シンチグラフィでの治療効果判定の有用性につき検討した。対象は悪性骨・軟部腫瘍 19 例であり、術前化学療法が 5~6 コース施行されている。 ^{201}Tl 74~148 MBq 静注後 1 時間以内に全身像を撮像した。 ^{201}Tl の腫瘍への集積度を 5 段階にスコア化して化学療法前後で比較した。摘出標本にて著効およびかなり効果ありと判定された群での集積スコアの改善度はそれぞれ 2.00 ± 0.89 , 1.33 ± 0.47 であり、無効群の 0.17 ± 0.69 に比べ有意に高く、本法は化学療法の治療効果判定に有用と判明した。また治療早期での効果判定も予測可能であった。

22. T1 肺癌における ^{201}Tl SPECT の検討

奥泉 譲 小嶋 志之 梅崎 実
左合 直 野口 正人
(福井赤十字病院・放)
大竹 洋介 平井 隆 山中 晃
(同・呼外)

腫瘍径 3 cm 以下の T1 肺癌 38 例について ^{201}Tl SPECT の診断能を検討し CT の診断能と比較した。T1 SPECT による肺癌の診断は利波らの方法に準じ Retention index の正負により診断し、CT 診断は従来のスライス厚 5-10 mm の画像で診断した。その結果、T1 肺癌全体で T1 SPECT は 79% と高い陽性率を示し、また CT では良悪鑑別困難な腫瘍影でも 80% と高い陽性率であった。また、画像診断で肺癌が否定できず手術が施行された腫瘍径 3 cm 以下の非癌例 11 例でも T1 SPECT は 82% と高い正診率が得られた。したがって T1 SPECT は肺腫瘍影の良悪性鑑別に有用と思われた。

23. 肺癌の $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBI SPECT

大口 学 東 光太郎 玉村 裕保
谷口 充 興村 哲郎 山本 達
(金沢医大・放)
松成 一郎 的場 宗孝 西川 高広
一柳 健次 (福井県立病院・放)

肺癌患者 10 名に対し、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBI 約 740 MBq 静注後 15 分、3 時間後に SPECT を施行した。ほぼ同時期に ^{201}Tl -SPECT も施行し、比較検討した。原発巣はすべて MIBI, Tl の SPECT 上描出された。MIBI の ER, DR は平均でおのおの 2.10, 1.93 であり後期像で減少する傾向がみられた。Tl では ER, DR はおのおの 2.59, 2.89 であり後期像でコントラストが上昇する傾向がみられた。しかし、MIBI と Tl の ER, DR また D/E 比も統計的有意差はなかった。肺門および縦隔リンパ節転移は MIBI, Tl ともに同様に描出された。以上より $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBI SPECT は肺癌の病巣進展の診断、治療効果判定などに有望である可能性が示唆された。

24. ^{18}F FDG PET による肺癌の評価： ^{201}Tl SPECT との比較

東 光太郎 大口 学 西川 高広
玉村 裕保 谷口 充 興村 哲郎
山本 達 (金沢医大・放)
関 宏恭 (金沢循環器病院・放)

原発性肺癌 (non-small cell carcinoma) あるいはその再発患者 12 例に対して、ほぼ同時期に ^{18}F FDG PET, ^{201}Tl SPECT および胸部造影 CT を施行し比較検討した。PET は ^{18}F FDG 111-185 MBq 静注 40 分後に撮像し、 ^{201}Tl SPECT は ^{201}Tl 111 MBq 静注 15 分後および 3 時間後に撮像した。 ^{201}Tl SPECT は最大径 1.5 cm 大の腺癌、最大径 2 cm 大の扁平上皮癌、著明な壊死を伴う扁平上皮癌再発例の 3 例で病変を検出できなかったのに対し、 ^{18}F FDG PET は 12 例全例で病変を検出でき、最大径 1 cm 大の肺内転移も検出できた。また肺癌の伸展範囲の判定も ^{18}F FDG PET のほうが明瞭で容易であり、特に無気肺例で差がみられた。